

天 下 分 け 目 の 西 山 天 王 山 駅

～新駅を活用した観光振興について（京都府大山崎町）～

【京都財務事務所】

1. 大山崎町について

本町は、京都盆地の南西端である乙訓（おとくに）地域の西端に位置し、東は京都市、北は長岡京市、南は桂川・淀川を隔てて八幡市と相對し、西は天王山を背景に大阪府島本町と接している。また、桂川・宇治川・木津川の三川が合流する地域にあり、名神高速道路、東海道本線、新幹線などが縦横に走っている。

本町の西に位置する天王山は、羽柴秀吉が明智光秀を破った山崎の合戦の主戦場。そして、「天王山」といえば「天下分け目の戦い」の代名詞となっている。



2. 大山崎町の観光について

本町の観光については、天王山への登山が大半を占めていたが、天王山登山は最寄駅が阪急大山崎駅やJR山崎駅側となっていたことから、本町側から登山し、長岡京市側に下りる観光客が多く、本町側の経済効果があまりなかった。



そのような中、本町に隣接する長岡京市に阪急「西山天王山駅」が開設されることとなった（詳細は地域トピックス「新たな交通結節点西山天王山駅」を参照）。新駅が天王山に近いこともあり、新駅開業が観光振興を図る上での起爆剤と考えた本町は、長岡京市側の天王山登山口に看板を設置。そして、これまで、本町側から登山し、長岡京市側に下りていた天王山登山を、新駅である「西山天王山駅」を起点とし、長岡京市側から登山し本町側へ下りるコースを整備した。



宝積寺

このコースでは、本町側に下りるため、登山後、大山崎山荘美術館、羽柴秀吉が一夜にして建てたといわれている「三重塔」や秀吉が腰かけたという

「秀吉出世石」などがある宝積寺（宝寺）、江戸時代から豪商住友家も「商売繁盛」のご利益があるとして帰依した観音寺（山崎聖天）などの観光ができる。そして、観光とあわせて町内での飲食や土産物の購入につなげることで、本町は観光資源を有効に活用でき、経済効果も波

及すると考えた。

平成 25 年 12 月 21 日に新駅が開業し、約 7 か月が経った。新駅開業前の取組みが功を奏し、本町を訪れる観光客が大幅に増加している。26 年 4 月には、阪急電鉄主催の新駅を起点としたハイキングイベントにより、一日で本町の人口の約 1/3 にあたる 4,700 人が天王山を登山。大いに賑わいをみせた。町内の飲食店や土産物屋などで新駅開業後、観光客の増加もあり、来店客が増加したとの声も聞かれ、手応えをつかみつつある。今までになかった変化が起こっており、新駅開業効果が本町にも波及している。



観音寺

3. 今後について

本町では、「観光振興を中心とした地域活性化が不可欠であり、天王山をはじめ歴史的名所などが集積している本町の認知度を向上させる情報発信により、さらに観光客を呼び込む取組みを続けたい。」としている。

今後、外国人観光客も増加傾向にあることから、英字パンフレットを作成するとしているが、観光振興を中心とした地域活性化の取組みはまだまだ始まったばかり。観光資源を生かす取組みが、地域活性化に資することを期待したい。

(大山崎町 ホームページアドレス <http://www.town.oyamazaki.kyoto.jp/>)